



—北アフリカ地域ニュース—

チュニジア：国民制憲議会選挙の公式結果発表

研究員 江崎智絵

### 1. 選挙結果

2011年11月14日、チュニジアの独立高等選挙機構は、10月23日に行われた国民制憲議会選挙の公式結果を発表した。投票率は、54.1%で、約760万人の有権者のうち約400万人が投票を行ったことになる。第一党となったのは、ベン・アリ前政権下で活動を禁止されていたイスラム政党のナハダ党であった。

ナハダ党を筆頭に、今次選挙で議席を獲得した政党・候補者は、以下のとおり。

(1) ナハダ党	89 議席
(2) 共和国議会党 (Congress for the Republic; CFR)	29 議席
(3) 人民嘆願党 (Popular Petition)	26 議席
(4) 労働と自由のための民主フォーラム (タカトル党)	20 議席
(5) 進歩民主党 (Progressive Democratic Party)	16 議席
(6) 民主近代主義者ポール (Democratic Modernist Pole)	5 議席
(7) 共産党	3 議席
(8) その他小政党 (複数合計)	13 議席
(9) 無所属候補者	16 議席

### 2. 新内閣の組閣に向けた動き

ナハダ党が第一党になることは、国民制憲議会選挙の実施直後からいわれており、同党は、10月26日の段階で、選挙後1カ月以内に新政府を樹立することへの意欲を表明していた。

今次選挙結果を受け、まずは、新内閣の組閣が課題となる。ナハダ党は、同党のハマデー・ジバーリ事務局長 (副党首) を次期内閣首班候補者として発表し、CFR との間で連立工作について協議を始めていた。また、ナハダ党は、11月9日、CFR 及びタカトル党との間で、国民制憲議会の内部規定を含む司法問題について共通見解を確立するための協議を開始したと報じられた。

### 3. 今後の動き

新政府の樹立後、新憲法が制定され、2012年には大統領選挙が実施される予定である。新憲法の制定にあたる新議会の初会合は、11月22日に開催される。

新議会内には、中道左派寄りの進歩民主党や左派系の民主近代主義者ポール等、イスラム政党であるナハダ党を敵視する勢力も存在している。新政権の樹立に向けたナハダ党の課題は、穏健なイスラム政党としての性質を他党との政治力学にどのように反映させていくかであろう。